

平成29年度 まちづくり懇談会

### 湖東地区会場の要旨

平成29年10月30日（月） 19:00～21:00

湖東地区コミュニティセンター 参加者 67名

市長：皆さんこんばんは。2週連続の台風で皆さんも大変だったと思います。その影響で今日は西高東低、冬型の気圧配置ということで寒気も南下しているようでございまして、今晚も非常に寒くなってまいりました。これから冬を意識した季節になるなど改めて思うところがございます。本日は大変お寒い中、お忙しいところ平成29年度まちづくり懇談会にご出席をいただきましてありがとうございます。昨年のもち懇では「大いに語ろう、茅野市の未来予想図」ということでこれから10年、どんなまちづくりをしていけば良いのか、そんなことを意見交換させていただきました。そんな皆さんのご意見を踏まえまして、これから10年の茅野市の計画であります第5次茅野市総合計画を今策定中でございます。今日はその基本的な方針についてお話をさせていただき、皆さまと更に意見交換をしてまいりたいと思っております。また後段におきましては「湖東地区の魅力」について語っていただき、それをどう活かしていくか、そんなことについて忌憚のないご意見をいただければと思います。日頃より市のまちづくり・ひとづくりに尽力いただいておりますことを改めて感謝を申しまして、簡単でございますけど開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

企画部長：続きましてこのまちづくり懇談会は、湖東地区コミュニティ運営協議会との共催で実施をしております。それでは湖東地区コミュニティ運営協議会会長、鷹野原秀幸様よりご挨拶を頂戴したいと思います。

湖東地区コミュニティ運営協議会会長：皆さんこんばんは。今年より運営協議会の会長をやっております鷹野原秀幸と言います。新井です。どうかよろしくお願ひいたします。まだ勉強中というところで皆さんのご指導をいただきながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。先程市長からもありましたように後段では湖東の皆様が日頃思っていること、疑問に感じていること、アイデア等出していただければと思いますので、その点についてもどうかよろしくお願ひいたします。

－テーマと資料の説明 内容は米沢地区を参照－

市長：まずは目指すべき将来像ということで、これが良いのではないかとということでまとまりつつありますけども、どうでしょうか？今日初めて聞いた方がほとんどだろうと思っておりますけども、どんな印象をお持ちでしょうか。それとも「これじゃあなかなかイメージが湧かない」というご意見もあろうかと思っております。気がついた感想で良いですけどご発言でございますか。

またこれから意見交換を進めていく中で立ち返ってご発言いただいても構いませんので、「あの将来像はもっとこういう言葉を入れたら良いのでは」とかありましたらご発言いただければと思います。それでは5つの基本的な指針を示させていただきました。まず1点目が「あらゆる世代で支え合う仕組みづくり」ということでございます。これについてご意見ございましたらどうぞ。

この仕組みを作っていくということは、区・自治会の単位で見るといろんな役目も出てくるという側面も持っているんですよね。今これが進む中で「区のやり手もいなくなった」という声も聞いています。これは湖東地区だけではなくてあらゆる地区で聞いている。しかしその中でそんな仕組みを構築していくことができるかどうかという挑戦になるかなという側面も持っているんですよね。まだそれぞれの区・自治会さんでは出払いをやって環境整備とかもしていただいているかと思います。そういった取組もこれからどういうふうにしていかなくてはいけないか、ということもあるかと思います。いずれにしても区・自治会の中であらゆる世代で支え合う仕組みづくりができるかどうか、是非これは「言うが易し」ですけど「する」は相当難しいと私も思っています。公民館を活用した取組と言っても、実際に誰が責任もってやるのか。当然区長さんという訳にはいかないと思います。子供とかがそこに居るとなると、怪我とかした時の責任の所在はどうするんだ、みたいな現実的な問題も出てきます。非常に難しくクリアしていかなくてはいけない課題が沢山あるが、そういった拠点が必要になってくるだろうと思っています。そんな仕組みを作っていきたいなということで、ぼちぼちそんな取組を始めていただいた区もございます。まだ完璧な状態ではございませんけど、最近の子供の貧困とかをとっかかりに公民館で居場所を提供して、ということも始まっています。それぞれの地区であったり、区や自治会の実上に合ってその形態はいろんな形に変わっていくだろうと思います。そんなことで高齢者の見守りであったり、子育て支援だったり、そこを拠点に災害時の要支援者の皆さんとの連携を密にしたり、ということができたらいいなと思っています。過日、先週台風21号が来まして、茅野市で一番被害があったのが横内の下町区アクアランドの前の所で21軒床上・床下浸水がございました。急激に上川の水位が上がって水が掃けずに溢れてしまった訳でして本当にお気の毒であったんですけど、私もお見舞いに行ってその人達と話をするとき、やはり区としても当然区長さんもしてくれましたけれども、そういったことが予想される地区、その何軒かで対応する仕組みができていればまた違ったんだろうなと実感しまして、被災された皆さんとも話をしてきましたけれども。湖東地区でも、例えば堀なら堀でもやはり特徴的に「ここはこういうものが危ない」という場所も絶対あると思います。そこを丁寧に切り分ける、そしてヤバそうな所は市の方とホットラインを構築しておく、そんな必要を痛切に感じました。そんな取組はすぐにでも始めたい。これもまた区長さんには新たなお願いをしなくてはならない部分も出てきますけど、そんなことも感じました。大きな中村区さんの場合、場所によっては被害に合いそうなタイプが違ってくるだろうと思います。そんなことをもう少し丁寧に具体的に区の中でも切り分けなくてはいけない、そんなことを感じております。そういった拠点作りにもなれば良いのかなと思います。是非、皆さんの方からご発言をお願いいたし

ます。自主防災や災害対応するとなると消防の皆さん、普段活動していて思うことはありませんか？よろしいですか。

一応一通り進めてまいりますので、前に戻って発言してもらっても構いませんのでお願いします。2点目が稼ぐ場所をしっかりと整備と言うか、産業振興を図っていかなくてはならないということでございます。観光を切り口としたまちづくりということで、先程もちょっと触れましたけど笹原さんが今取り組んでいて、不安に思うことでも良いですし期待することでも良いですし、何かございませんか。

市民：まだやっと協力隊の人達と作っているところで、12月ぐらいまでに取りまとめて、5つの部会がありまして歴史部会・郷土料理部会・田舎暮らし部会・農業部会・自然部会、そこの方である程度役員を決めてそこで各会でいろいろ検討してもらって、12月ぐらいまでにまとめて市長さんの方にまた報告をさせてもらって助言をいただきたいと思います。この間もイタリアの料理教室に20数名生徒さんが来られて饅頭のツアーと郷土料理のツアー2回ほどやりましたけれども、これから進めていきたいという段階です。

市長：まだ確たるものにはなっていないかと思いますが、取組まれてきて感想として「物になるかな」という感じか、それとも「これはなかなか大変だぞ」という感想か、どうでしょう。

市民：部会によっては大変な所もありますけど、進めやすい所もありますので。郷土料理の方は実際に動いていますし、山林の方の自然部会の方はマウンテンバイクをやるにしても、計画もコースとか考えなくてはならないし、また農業ですと高齢化の問題がありますしブランド化した米を売り出そうかとか。なから事業としては進みつつあるけど一部の部会ではちょっと思案している状態です。

市長：ありがとうございます。急に振っちゃって申し訳ないですけど、ブランドと言うと「笹原」がブランドになるんじゃないですかね。

市民：一応商標名は「御射鹿池」のネーミングでどうかなと。

市長：「御射鹿池」ね。ちょっと格好良過ぎじゃない？「笹原」の方が世界に通用するような気がするけど。

市民：売れているという今は「御射鹿池」かなと。それを使ったらどうかと検討しています。

市長：期待しています。またご支援をさせていただきますので、よろしく願いいたします。産業振興についてどうでしょうか。

市民：ちょっとクレームじゃないですけど、具体例と書いてあっても実際に取り組んでいる訳ではないので取組案とか。何か違う内容で、具体的ということは今笹原さんも言いましたけど「商標名で登録したいんだ」とか「こういうことをやりたい」というのが具体例であって、ここに書いてあるのは取組む案ですよ。その辺からして全般に言えるのはもっと突っ込んだと言うか、市長さんが先程言われたように少子化も高齢化も進んでいく中、人口が減るよという中で収入面が大きな問題になるのであれば、少し今後そういう場所も作りながら大手、あるいは大手じゃなくても中小でも構わないのですが誘致をしながらやる、あるいはそういう具体的な取組もして欲しいなど。それから消防の話もありましたけれども、また後でご質問させていただきますが本当に今の消防の在り方が良いか、ということになると30戸ぐらいで人員を7名出さなくてはいけない。高齢化が進む中でどうやって出すんだと。本当に現実にそぐわないと言ったらおかしいですが、消防の在り方もやはり検討する必要があるかと。せっかくこうした市長さんと語る会ですので、突っ込んでこういうことをしていきたいと。観光と言ったら蓼科をこういう様に変えてお客を誘致したい、あるいは御射鹿池と連動してこういうことをしたい、縄文の場所についてはこういう風にしてお客を誘致したい、あるいはお客を呼び込みたい。それにはこういう物を作っていきたい。という具体的な物を出していかないと、ただ絵に描いた餅で終わってしまう、ということだけお願いします。

市長：まさにそれが大事な意見でございまして、具体的なということは今それぞれの計画を作っています。この中でかなり具体的な政策が出てまいりますけど、一例で観光のことで言えば白樺は何と言っても「廃屋」、あれを何とかしなければその先は見えてこないということで地元の白樺湖それから柏原区民の皆さんとの方策について鋭意、検討をしています。蓼科につきましては蓼科の活性化会議というのを作りまして、蓼科・蓼科中央高原・奥蓼科、この3つが連携して具体的な取組をどうしていくか。とりあえずは蓼科湖のリニューアルから手を付けていこうということで、ご存じの方もいるかもしれませんが「帰ってきた蓼科」と言う会社を作りまして、そこが中心になって蓼科をどういう切り口でハードも含めましてやっていくかを、今議論をしています。それから御射鹿池と言うと地元笹原区さんのお考えも大事にしないといけないと思っています。御射鹿池の県道の整備と共に駐車場は作りました。けれどもその後の展開をどうするのか。これも御射鹿池という良さを活かして活性化を図るにはどうすれば良いのかということ議論していかなければいけないと思います。単純にあそこに売店を作ってやるのが本当に良いのか、あそこはあそこであまりゴタゴタさせずに、しかしお金を落とす仕組みはどういうのが良いのか、これは笹原の皆さんとしっかり議論する中で位置付けていく問題であろうと思います。そういう中で観光まちづくりもそうですけど、そこにある魅力というものをどういう風に切り盛りしていくかということは当然行政も考えますけど、その実際に関わっている地元の皆さんがどうするかということ、私はこれが1番だと思います。ですので言葉で言うと「住んで良し、訪れて良しの観光地域づくり」ということで今進めてい

ます。今までの観光は「住んで良し」ではなかったと思っています。それではいけない。そこで住んで生活している人達も誇りを持ってその観光資源を提供できる、そういう観光まちづくりをしていかななくてはいけないだろうと。先程も言いましたけれども諏訪圏はものづくり産業の所でございます、まちの収入の半分以上は製造業の稼ぎで上げている訳です、そこをしっかりと育成していかななくてはいけないということで、まず茅野市は現にここで創業している地元企業の育成を第一に考えています。これは市民プランの中の産業振興ビジョンの中の続きですけれど、それを第一に考えていく。しかし優秀な企業にはここに来てもらいたい。そんなことでこれもご案内のことと思いますけれど「ディスコ」という会社がここに500人からの工場を作っていく、そんな報告もございます。イースタンもここで事業を拡張してきます。上原山にあるファナックという会社も新工場を今建築中でございます。そういう中で企業誘致も図っていく。ただ企業誘致する時の大きな問題は、工場ができたけれども働き手がいなかった。これも大きな問題になります。実際新しい企業が来れば現企業からの引き抜き、ヘッドハンティングみたいな行為が絶対起きてくる。そういった中で今までの既存の企業と新しく誘致した企業がどう上手くWin-Winの関係でいくか、そういう仕組みを作ってやらなければいけない。当たり前ですけど一つの社会を回していくのはなかなか大変です。その中ですぐにはできませんけど、理科大を卒業した多くの学生が地元企業に就職してくれる、そんな仕組みも今度公立化ですから行政としても企業に対してお願いしていかななくてはいけない部分もありますし、大学にそういったことを学生のうちから企業との連携をインターシップであったり、工場との連携した取組であったり、そういったこともやっていけるだろうと思っています。まだまだ具体的な部分ではありませんけれど、それは政策の中に紐づくそれぞれの個別計画の中で位置づけていきたいと思いますので、ご期待をいただきたいと思います。消防のことについては後でよろしいでしょうか。

市民：この間市の農林課だと思うんですけど、営農組織の団体の人を集めて第5次総合計画に農業の問題をどういうふうに反映させて、どういうふうにこの地域の農業振興を進めていくかという懇談会がありましたけれど、今市長の説明を聞いていると、何か「ものづくり」だとか「縄文を活かして」だとかよく分かるんですけど、何だかんだ言ってもこの地域の中山間地域の農業はかなり苦勞してみんな何とか生活していかななくてはいけないという農業の状況の中で、農業の問題についてもわざわざ会合をもって意見を聞いている訳ですから、是非とも主力な項目に入れてもらいたいなというのが私の考えですがいかがでしょうか。

市長：主力な考えの中に入っています。基本的には産業振興ビジョンの中に農業振興ビジョンというのが位置づけられます。このビジョンに沿って農業振興を図っていく訳ですけど、正直結構大変だと思っています。今農業の担い手・育成ということでは、後継者不足を補うためにメインは集落への組織を是非作っていただいて、その集落単位で農業・農地の保全をしていこうということで進んできています。茅野市では10地区ありますけれど、その要件を次の農業振

興ビジョンでは少し要件とかを少なくしないと駄目だろうということもあります。この集落への組織も維持してくれているメンバーの平均年齢は多分70代だろうと聞いています。50代・40代の方はそこにいない。ということは10年経てば今切り札でやっている集落での組織も立ち行かなくなる。それを見据えて何ができるのかという、そこは農家の方も大胆な発想を持ってもらわないと維持できないかと私個人は思っています。そうならないように何ができるかを議論してもらっています。やはり具体的に言うとコンバイン、これがなくなったら立ち行かなくなりますから、この支援は継続していかなければいけないだろう。プラス、集落への組織はできたけれども若手がいないその状況をどうクリアしていかなければいけないか、もっと大きい会社的な組織を作らないと維持できないのか、そんなこともあると思います。農地の保全という観点から違った切り口で何ができるのか。今、蕎麦をいろんなところで作っていただいています。去年が140ヘクタール、今年が170ヘクタール蕎麦を作っているけれども、蕎麦でやっていくにはそう簡単ではない、米ほど儲からないから。だけど遊休農地を作らない一つの対策であるなら、それをどうすればもっと良い形にできるか考えていかなければいけない。そういうことでここには出てきませんが農業を疎かにしている訳ではございませんので、またいろんなお考えをお聞かせいただければと思います。

市民：よく位置づけて検討してもらえればと思いますので、よろしくお願いします。

市長：しっかりと位置づけておきますので。

それでは次に進めます。「21世紀を生きる力を育む仕組みづくり」ということで、やっぱり教育は国家百年の計になる訳でして、非常に大事な部分だと思っています。ここで両校長先生から取組の状況を簡単にご説明ください。

北部中学校長：全体的な政策についてはこども部長さんがいますのでお願いしようと思いますけど、私の方で一つ具体的な取組として縄文科のすることについてお話ししようと思います。小学校の低学年から縄文の文化に触れながら、今年もお祭りにそれぞれの団体で関わってきました。私は中学生を相手にしていますので、そういうことを通しながら縄文科の教育は大きく見ると郷土愛の教育であり、また生き方に学ぶというキャリア教育であるかと思っています。中学を卒業するとき何よりも集団の一員として自分達何ができるかを考えて卒業していける、市民性の教育に繋がっていければ良いかなと考えながら工夫しているところです。

湖東小学校長：湖東に来て本当に自然の豊かな場所で、季節感をとても感じる場所だと思っています。この子供達が地域の担い手として成長していくにはどんなことをしたら良いのかなと、日々考えながら教育を進めています。その資料に書いてあります4つのことを中心になって進めています。特に読書については今年文科省の表彰を受けました。これも本校の活動というよりも地域の方々、保護者の方々が読み聞かせに来てくださる、いろんな意味で地域の方に支え

られながら推進してきたことが認められたと思っています。読書活動を保護者、地域と一緒にやっております。また縄文科のことについては後で話をしてもらいたいと思っていますけど、縄文科というよりも「地域の素材を使った教育」「地域の方々に支えていただいている教育」そんなところを小学校は進めています。

湖東小学校教諭：今2年生の担任をしています。私は湖東小に来て6年目になりました。長くお世話になっています。長くいればいるほど湖東は良い所だなと、私も茅野市民なんですけど湖東は良い所だなと常に思いながらやっていて、それをどうやって子供に伝えていこうかと常に考えています。子供達はきっと大きくなってここから出て行く子もいると思います。ですけどやっぱりここに帰ってきたいとか、「茅野市って良い所だから行ってみて」と自慢に思える所であったら良いなと考えてやってきました。今のクラスでは今年は湖東の良さをどう感じてもらうかと考えていて、一つの切り口は自然の所なんですけど1学期はタンポポを食べました。2学期はこの間多くの先生方に見に来て貰ったんですけど、イナゴを取って料理して食べました。そうやって昔からの自然を活かした地域であると思いますので、それをどう子供に伝えてどう繋げていくかという所を私達教育の現場としても考えなくてはいけないのかなと思っています。はつえさんにもいつも助けていただいて、2年生は冬には凍み大根作りをやるんですけど、そういう農業・産業と子供達も触れることで、畑もいつも教えていただくんですけど小さいときから経験することで、それをどう繋いでいったら良いかと子供達も少し考えてくれるきっかけになるんじゃないかなと思います。

市長：ありがとうございます。今話を聞いていて将来像の中にもありましたけど、やはり人と人との繋がりは絶対欠かせないと思ったところがございます。教育についていつもお感じになっていることがございましたらどうぞ。

市民：笹原に生まれて今も笹原に住んでいて、郷土料理の方で学校と子供に関わったり、野菜を作ったり、凍み大根作りもしています。湖東小学校のクラブの一貫として14年ばかり続いていますけど、14ばかりあるクラブの一つに私が郷土料理をやっています。そのクラブ活動の講師を教員でない外の人を頼んできてやっていることが、外との繋がりがあって湖東は良い取組だと思っています。それから今「子供の居場所」ということで、年寄りの居場所作りは笹原でも6回ほど「いきいきサロン」をやっているんだけど、子供の貧困でじいちゃんばあちゃんとも住まないということで、湖東全体ではやってくれる人がいるかどうかと思っているけど、私はどうしても笹原で子供食堂をひと月に1回でもいいからやりたいなと考えているんだけど、それをどうしてやったら良いかと。今やっている所があるそうなので、そこを見学したりしてどんな仕組みでやったら良いかと考えていますが、子供を大事に育ててやりたいと思って。子供達からみたらひいばあちゃんぐらいなんだけど、そんなことを考えてはいるんだけど、できるかどうか。

市長：ありがとうございます。本当に小さい子からしたらひいばあちゃんですね。ありがとうございます。いろいろな所で子供食堂も立ち上がってますので、微妙にやり方が違ったりしているかと思います。またそういった情報はこども部の方で対応しておりますので相談してみたり、良いアドバイスがあるので気軽に声をかけてください。他にどうぞ。

先程言いかけましたけど英語教育ですけど、本当に茅野市は長野県でも先んじて取り組んでいます。これからのグローバル化を考えると若者は普通に英語がしゃべれないといけないだろうなと思います。そんなことで「習うより慣れろ」で今年1年ですけど台湾から秋先生という女性の先生が来て教えています。本当にこういう教え方をしなきゃ駄目だよなど、教え方というより対応の仕方かな。やってくれていますので、是非時間を作ってでも小学校でどういうふうに今は英語を教えているか、見てもらえれば嬉しいなと思います。子供達に何かを教えていく、関わり方もそこから他にも応用できるなと思って見させていただきました。是非校長先生に次いつ来るか聞いていただいて、その時間に合えば覗いてもらいたいなと思います。

先へ進みます。4番の社会基盤づくりでございます。普段感じていること等ございましたらどうぞ。

また進めていってどのタイミングでもお気づきのことがありましたらご発言いただいて構いませんのでお願いします。「あらゆる主体による協働のまちづくり」ということで、これも協働のまちづくり自体は昔からあると思っています。区の運営というのも協働のまちづくりだろうと思っていますし。ただ時代と共に対応の仕方や関わり方というのが自ずと変わっていくだろうなと。そこをどういうふうに上手く仕組みを作っていくか、そこには皆さんの知恵を出していただきたい。先程の子供食堂も昔にはなかった協働の仕組みだろうと思っていますし。ゆいわーく茅野には行かれた方います？まだ行かれてない方は一度足を運んでいただきたいなと。1階に美味しい食堂もございますし、昼飯を食べながら見学というのも考えてみてください。

8時を過ぎましたのでこのことについてでも構いませんし、この後の後段に予定しています「湖東の魅力とその活かし方」の説明をさせていただいて、そちらも含めて意見交換させていただきたいので、まずはセンター長簡単に説明をしてください。

湖東地区コミュニティセンター所長：「地域の魅力とその活かし方」ということで資料がございます。この資料は区長会、公民館、分主会、地区社協役員会、運営協議会の役員会の皆さんに「湖東の良いところはどこでしょう」とお話をし持ち帰ってもらって出してもらったまとめになります。ですから湖東地区でどうだろう？という話になったので、区・自治会の単位で考えてもらい出してもらいました。ここにはそれぞれ区長さんから出してもらった分と分主会や公民館長、主事さんから出していただいた分と、地区の役員の方、運協の役員の方から出された意見を集約して出していただいています。上菅沢区につきましては神社の村祭りとか桜の花見や伐採、剪定会を発足して行っているところです。堀区については一級河川の桜並木やエ

コーラインから八ヶ岳方向への眺望スポットを何とか有効活用できれば良いなということでした。新井区については風除けの松の公園を含む魅力ある散策路の整備ということでした。金山区については国道299号線沿いから見える八ヶ岳の景色ということでした。須栗平区については眺望の丘、これは収穫祭の復活ができれば良いなということでした。岳麓公園にあるため池の土手を使って紙飛行機飛ばし構想、あと今使われなくなったゲートボール場でのペタンク構想というところでした。笹原区につきましては先程からお話があったように鰻絵とか笹原の歴史・文化、山林内の林道整備、田んぼ・畑等の原風景、既にやっておられます郷土料理、市の天然記念物「シダレヤナギ」、こういったものを活かせば良いのではとのことでした。花蒔自治会については中村区とマレットゴルフ場が花蒔公園の横にあるんですがそこを利用した高齢者の体力づくりと親睦を目的として好友会を発足し「月例会」等を開催するとのことでした。東平自治会につきましては、自治会長さんが県外から転入された方でしたので余計に思うとのことでしたが、夜の星空はとても素晴らしいということでご意見をいただきました。こんな風なことで皆さんからご意見いただいてそのまま資料には載せてあります。ですので私が手を加えるとか運協の会長が手を加えるとか、そういうではなくダイレクトにそのまま皆さんにお知らせしておりますのでよろしくお願ひいたします。運協の会長から補足説明をいたします。

湖東地区コミュニティ運営協議会会長：「湖東」というくくりになると、なかなか一つのテーマでまとめるのは難しいかと思ひます。各地区が成り立ってきた過去の歴史等もありますので、まずは区・自治会の方でまとまっていたいただいて、その上で先行しています笹原区の例を参考にしながら湖東で言うと上地区・中地区・下地区という感じ、その後が湖東全体になるかと思ひます。先程市長さんからお話がありましたけれども、湖東の良いところと言ひますと自然災害が少ないということですよ。自然というと脅威になる面と恩恵を被っている面と2つあるかと思ひますけど、他の地区に比べれば山もありませんし氾濫するような大きな川もない。皆さんの方からももう少し湖東についての良い点、文化、その他を出していただいて全て入れればと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

市長：ありがとうございます。それぞれの区の特徴的なものもピックアップしていただいてありがとうございます。皆さんからいろんなご発言をいただきたいと思ひ訳ですけど、それでもやはり「湖東ってどういうところだい？」と聞かれたときにポンと答えられると更に良いなと思ひます。今茅野市もシティプロモーションということで、縄文を始めとして茅野市の魅力をどう発信していくかということでのいろんな検討をしています。当然、茅野市の魅力の発信だけでも、それは突き詰めればそれぞれの地域の魅力になる訳でして、またそうすることでコミュニティがより輝いていくかなと思ひて、今回はこのテーマにさせていただきました。そんなことで「今日ここで」ということではないですけど、湖東地区って一言でなんだい？と言われたら何になりますかね。そういうのがあればもっと良いなと思ひますよね。豊平って何だと言ってもポンと出ないけど豊平のイメージは昔は白樺校舎でしたので、「豊平と言えば白樺の

校舎だよ」と出るようなものがあると分かり易くて良いかなと思いますので、是非よろしくお願いたします。この中でも新井区さんの風除け公園はついこの間新聞にも出たかと思いますが、信州ふるさとの見える丘に選ばれました、木落とし公園と2つ。そういう中でこれも茅野市だけではなくて八ヶ岳の山麓の一つの大きな名所というか象徴だろうと思います。ただそこを「こういう風にしてもっと活かせば面白いんじゃないか」と高めていかないと、ただそこに風除けの松があり写真を撮って終わりになるんだらうなど。そこに仕掛けることで地元の人達にとってもそこを通る人達にとってもプラス $\alpha + \alpha + \alpha$ ぐらいの。その先には多少お金が落ちる仕組みみたいなものがあればもっと良いんだらうなどと思いますけど、それはやっでできないことではないと思います。そんなことから「この地域の魅力とその活かし方」というテーマを挙げさせていただきました。これは本当に漠然とした部分もありますし、思いつきでも構いませんし、普段からこんな風にしたら良いんだとありましたら遠慮なくご発言をいただきたいと思います。風除けの松は地元としてどうですか？

市民：良いところですよ。うちも近くです。うちの庭みたいに見ていますが。あれをどう活かせば良いかという所まではなかなかない。良いところは公園ができて良かったなという感じではあります。面白い利用の仕方があって毎日通ってくる人がいます。良いトイレがあるもんですから。違う意味で悩みもある、そういう現実もあります。余談ですけど。

市長：そのことは管理は知っているんですか？風除けの松は一応芹ヶ沢さんが管理ですよ。そういったのも含めてだと思いますし、あの松も未来永劫あのままでいれるかと言ったら若返りも図っていかねばいけなだらうから、そのことも考慮しながらあの景観を残すことも必要になるかなと思っています。

やはり運協の会長さんが言ってくれたように湖東地区は上・中・下の固まりというのはあるんですよ。消防も中の方から見れば上の方に八ヶ岳が見えるけど、笹原とかは下界の景色が綺麗というか、良いなと思います。その場所によって違うんだと感じます。

この地域の魅力も含めて、地区の課題についても意見交換してまいりたいと思いますので、どこに戻っても構いません。この地域の魅力でも良いですし、第5次総の基本指針についても良いですし、これから地区の課題についても意見交換してまいりたいと思います。

市民：私の方で区の協議会で諮りました。少子化に伴う消防活動全般について3つの内容を市の方にお願しました。「消防隊員を削減して欲しい」という、隊員の確保が難しいこと。2番目としまして「消防自動車を購入するについて1割負担」現状で区費もお金が無いということ、また出動範囲が狭められている中で湖東地区として消防自動車を持つことが本当に良いのかどうかの内容。3番目としまして集落につきまして先程も少し触れましたけれど「現状の消防組織が本当に必要かどうか」について疑問があるということで、今後の中で2次災害等が起こった場合、実際には消防が出て最低人員の中で対応するのは非常に難しいということをお願しました。

ときにどうしたら良いか、という内容でぶつけています。その中で市の消防の考えとすれば、簡単に言うと部の定数あるいは統合等については分団で決めていただいて良いということですが市として本当にこれで良いのか、市の考えをお聞かせ願いたいということです。

市長：ありがとうございます。区長さんもおっしゃっていただきましたように、消防団の定数は条例で決まっています。これは変えることができないという訳ではなくて、過去にも変えてきた例がございますので議論する中で茅野市消防団としての定数が位置づけられてくると思います。その中で今956名をどう割るかは消防団の方で決めています。米沢分団何人、宮川分団何人、という中で湖東分団が93名。またその93名を各部でどう配置するかは分団の中で決めています。基本的には分団の中で合意が得られればその定数の移動はできます。湖東地区においては4年前に消防団の在り方を地区として検討していただいて提言をいただいた経緯もございますけど、その時には確たる対応のところまではいかなかったかなと思います。かなりその分団の中で裁量はあるということは、先程区長さんがおっしゃったとおりでございます。定員にしてもそうだし、今堀区に市の配車が行ってますけど必ずしも堀区でなくてはいけないということはありません。今一番ニーズが多いのは中村区だから中村区の方で配車を受けると湖東分団の区長会も含めた中で合意形成になれば、それは全然やぶさかではございません。またうちの部だけではできないから例えば新井区と堀区で一つの部を形成することも可能です。どういうふうにしてやるのが一番理想かというのは、その分団で考えていただければとなります。では市としてはどうかというと、結論として私の思いからすれば可能な限り消防団としての活動はして欲しいと思っています。確かに大きい災害対応は消防団だけではできる訳なくて、地域みんなで対応しなければいけませんけど、近くの火災とかは消防団が活躍してくれている、という災害対応もありますけど、それ以上に消防団はまちづくりの大きな核になっていると思っています。特に若い世代が地域社会に入っていく入口が消防団の活動だろうと。自分の経験からしても消防団に入ることによって区の組織がどんなことをやっているか勉強する。また地域の先輩達とも消防団活動を通していろいろと教わっていく。それがひいては村の役になったり地域の役になったときに大きな意味を持ってくると思います。私は可能な限り消防団は存続して欲しいし、それだけの地域にとっても本人にとっても意味のあることだと思っています。確かに昔に比べて今はサラリーマンの消防団が多い、また世知辛い世の中でなかなか時間も費やせない、なかなか給料が上がらない世の中で消防団で使うお金もある。自分の頃に比べて大変なのはよく分かるけれども、それでも尚且つ維持できるならしていただきたい。これは市というか私の思いです。そんな思いを事ある毎にしゃべらせていただいているし消防団にも願っている。現実問題としてそれが無理だとなったらそういう訳にもいかない、その時にはどういう形が良いのか。それは先程も言いましたように分団で、そして区長会が中心になって地域の皆さんでどうするかを真剣に考えていただきたい。そのことに対して市に「こういうことをしてもらえれば続けるけど」とあれば市も支援していきたいと思っています。ちょっと明確な答えではないかもしれませんが。

市民：市の条例で900何名が決められていまして、そのうち湖東に93名が割り当てられている、ということですよ。湖東の分団の中でやりくりすれば良いと言っても、小さい地区がいくつかあって中村区さんも大きな地区ではあるけど現状新しい人達が来て消防にはなかなか入りづらい、入ってくれないということの中で、中村区さん自体も団員の確保が厳しいと聞いています。そうすると分団の中で93名をあっちこっちと振っても実際当区として減らすことは不可能なんです。聞いたかったのは市として消防を辞めろとか言っているのではなくて、存続する中で条例で950から850名に減らして堀区には10人に減らす、そういうことをしても良いのかどうか。今、諏訪広域連合になってポンプだとか消防自動車がいろんな所に市の方の関係が動きやすくなっている。その中で当区の消防団員から聞くと地区から外に出てはいけないとか、水を出してはいけないとか、いろんなことを言われる訳ですよ。それがどこまで正しいかは分からないんですけど、現実そういう話だけが先行しているものですから。ある限られた地域しか行かないのであれば団員を減らして、減らした代わりに激甚災害がこれから30年以内に起こりうると言ってるから、もう少し高齢の方が何かあったときに対応できるような組織替えにしてもよろしくないですか、ということをお願いしたい。

市長：私の答え方もまずかったなと思いますけど、茅野市消防団の定数は条例で決めていますので、これを減らすこともできます。何年か前にもそういうことで投げかけましたけど、減らさないでくれという現状です。900何名をどう割り振るかは茅野市消防団と分団との合意です。ですから例えば湖東分団あと10名は無理だと、そうすると宮川分団でまだ欲しいと言えば、湖東を83にして宮川を150いくつにすることは消防団の中で決めることですので、分団長会議の中で決めていけます。ただしその時にその83名を割り振る訳ですけど、1、2名で良いかといったらそうはいかない。機関班のポンプだったら4、5名だったかな。それを操作してやる最低の人間が必要になりますので2、3名だと部として単独ではできない。先程言いましたように新井と堀とで10名はキープするか、とかの話になりますので最低何名かはいる。ポンプ車だったらもっと多いですよ、最低の消防団員がいないと動かせないという決まりがありますので。それは確保していただく中で最低でも存続するなら何名かはいなくてはいけません。ただ例えば「金山さんで単独は無理だから新井さんと一緒にやるよ」という選択はできます。その中で金山さんで3名いて新井さんで7、8名いて一つの部を形成するということもできます。それは分団として、区として、どういう形でやっていくかは議論していかなければいけないということです。

市民：「まず市の条例で人を減らすことはできます。その前に茅野市の消防団全体として人のやりくりがつけば基本的には条例を変えずにそちらでやって欲しい」ということでよろしいですか。

市長：どっちが先かということではないんですけど、前回のときは定数を減らした方が良いのではないかということでしたけど、分団長会で話をする中でそれは変えないでくれという消防団からの要望があって定数は変えませんでした。それは現実問題その定数では多いとなれば変えられます。

市民：わかりました。

市長：他にどうぞ。消防団の皆さんもなかなか言えないでしょうから今日は思いがありましたらどうぞ。

市民：議員会で話をして議員会の意見ですけど、河川改修で地元の負担金をなくして欲しい。地区の中を通っている川も、田んぼや畑を通して農業用水であると同時に生活用水でもあるので、災害が起きそうだから困るといときに、負担金がなければなかなか工事をやってもらえないとなると、災害が起きるまで待たざるを得ないのかなと。是非、河川改修の負担金というのは無くしてほしいというのが1点です。通学路ですが金山は299の脇の歩道を通学路として小学生も中学生も利用させてもらっているんですけど、歩道の舗装とU字溝の割れ目だとか舗装にも切れ間ができたりして、そこらじゅうに隙間がある訳ですけどそこに草が生えてきて、年に一回、8月頃1度は国道の方で刈ってくれるんですけど草が伸びるのは5、6月ぐらいからでかくなって、土手の方から草は伸びてくる、車道側からU字溝と歩道の舗装の間から草が生い茂ってくる、歩きづらくて困るといこと。国道の歩道は県のものだという話もありますけど、金山としては県であろうが市であろうが関係なく通学路として困るので、是非隙間を埋める工事、草ができないように何とかしていただきたいというお願いです。あと個人的ですが景観の話で、私は年をとったので余計に感じるのかもしれませんが、昔子供を連れて車山へビーナスラインを上っていたときに下を見たら屋根がカラフルで、あの頃はカラートタンの家があったものですから。「あそこがどこのお家で、あそこがうちの屋根だぞ」と子供と言いながら上から見ても集落がきれいだなという想いがあったんです。富士山に一度登ったときも小さくて家はあまり見えないんですけど、集落はどこに大きな町があるとか、あそこはどこの町かなと見た記憶があって。最近あまり高いところには行きませんが、下を見たら家がどこにあるか分からないんですね。屋根がみんな同じ色になっていて。茅野市の条例では屋根の色をできるだけぼかさないと八ヶ岳が目立たないというようですけど、上から見たときに「あそこに集落がある、あそこに人が住んでいる」と見える方が山に登ったときに楽しいんじゃないかなという思いがしています。あとお風呂に関係するお仕事に携わらせていただいている、来たお客さんが言ったことなので私の意見ではありませんけど、「茅野市もお風呂がいっぱいあるんだから、温泉ラリーということスタンプカードみたいなものでついて、いっぱいになったら縄文のビーナスのレプリカとか何かくれるとか、お風呂に1回や2回入れるようにすると、周りの人達もたくさん来るのにね」という話をされたんです。観光となるとお客さんを呼ぶに

は、温泉ブームでラリーをするのを楽しみにする人も多いということなので、今は市外から来たお客さんは高く取ると聞いたので、ちょっと考えてもらった方が良いのではという想いがありました。

市長：温泉の方からですけど、今もスタンプやってますか？それぞれの所に行ってスタンプを貰って揃うと1回無料というのをやっています。

市民：それはお風呂に行ったら申し出れば市外の人でも？

市長：お風呂に置いてあります。それぞれ行ってもらっていっぱいになると1回無料です。またPRしてもらいたいと思います。また屋根の色ですけど、確かに私も高い所が好きですのでその想いが良く分かって。これも総合的な景観と考えるとあんまりカラフルよりもと言われる方もいます。一応茅野市では景観計画の中で使える色は、そんなには厳しく指定している訳ではございませんけど極端な色は止めましょうということで取り組んでいますので、ご理解いただきたいと思います。本題の河川改修ですけど河川改修というと1級河川とか準用河川になるから、せぎですよ。堰の改修は確かに地元協力金8%をいただいています。この考え方ですけど茅野市では土地改良法だとか地方自治法等に則りましてその基準のお金をいただいている訳でございまして、そこには農地の受益者負担と言いますか、そういった考え方もあるのかなと思います。同じ堰でも町場の方へいくと生活用水ということで、本町とかはせぎの改修の負担金は無い。

市民：地区の真ん中を通ってきて、という堰でも8%出さないと言われるんですけど。

市長：現状それでお願いをしています。これもどういう負担の在り方が本来あるべきなのかということを何年前に議論したことがございますけど、結果としてこれといった結論が出てきていなくて現状で来ています。

建設部長：町場と言っても、田んぼを作っていないような排水になっている所がありまして、そこについては負担金が取れないと言いますか、使っている方がいらっしやらないので、雨水等も使うのでそうっております。例えば圃場整備を水路から集落を通して河川まで届けるような用悪水路と言いますが、それにつきましては用水ということで使う方がほぼこういう集落ですから、それにつきましては土地改良法で負担金がございまして。やはり圃場整備をやったときに集落の中でも使い方が変わってきている状況でして、その中で今は排水路になっていてここの課題になってくるかと思えます。

市民：町場では無料でとなると、田んぼの中を通っている圃場整備したせぎはともかく、地区

の中とか地区の周囲を流れている、地区にとって直接影響があったり生活用水として流れている川、せぎぐらいは是非無料にしてもらいたい。町場が無料であって田舎は金取るよという話の方が変な気がします。

市長：今部長が答弁しましたように、これも検討した経過がございます。今の時代にあった対応をしていかななくてはいけないかなと思いますので、今日のところはそんなことでご理解いただきたいと思います。ただ市としても軽微な改修については地元負担金のない重機借上げとかで対応するようにしております。長い道中の主要なせぎを直すときはそういう訳にはいかないということで、できるだけ国や県の補助金を入れる形で取り組むようにはしています。今日のところはご理解をお願いいたします。もう1点の歩道ですけど、区長さんがおっしゃってくれたように国道の管理は県となります。なかなか市としてもやってできないことはないけれども、一度やってしまうと県の方が「またやってね」ということで、市も少ない予算で対応できないということですけど、その隙間を埋めれば草が生えてこない状況ですか？

市民：隙間から出てきている草がほとんどなので、隙間を埋めてもらおうと少なくなります。

市長：歩道があって縁石があって、その横からもいっぱい出ているよね。

市民：その299のバイパスは縁石の脇にU字溝がまた入っているんです。そうすると縁石とU字溝の間、U字溝と舗装の間から続々とでかいのが出ちゃって、土手側からは区の方は一生懸命刈ってくれてはいるんですけど、下の方へ行くと覆いかぶさっている状況ですから、できれば車道に近い方ぐらいは草が無くて通ればありがたいです。

市長：確かにあそこは花を植えてくれたりきれいにしてもらっていて、いつも通る度に気持ち良いなと思いますし、県外の車も車を止めて写真を撮っている姿も見受けられます。ただ県の管理だからではなくして、長野県知事もある意味観光道路ですからそこはきちんとしなくてはいけないという基本的な考えでいてくれていますので、当然建設事務所にも話をしますし、県議と話をしながら今まで以上に県にも要望してまいりますので、よろしく願いいたします。他にどうぞ。

市民：環境事務をやっているんですけど、燃えるゴミなんですけどうちの所では水曜と土曜に回収するんですけど、その時に多分地区の人じゃなくて違う方が捨てていくのですが、その中に不燃物、燃えない物が混ざっていて、それが毎週出ている状態なんです。それで一回市の方に電話して確認したら、茅野市のゴミはどこに出しても良いということで。でもこちらからしてみれば自治会毎に管理している所であって、そういうのまで管理する様にはなっていないのですが、出されてしまうと捨てる以外無いんですけども。そこを自治会で管理できるような形と

言いますか、違う地区に出さないような指導はできないのでしょうか。

市長：まず基本的な区に入っていない方で茅野市民の皆さんには、転入してきた時にゴミの出し方等を指導しています。その捨てて行かれる方が市民の方なのか、それとも通りすがりというケースによって違うと思いますけど、基本的にはゴミの出し方はきちんと指導はしている状況ですけど、なかなかモラルに関係する部分も出てご迷惑をおかけしているというのは他所でもお聞きします。それは不燃物も入っていて、それを区の役員の皆さんが振り分けて対処してくれているということですよ。本当に処理に困る物であれば区の皆さんだけをお願いという訳にはいかないだろうと思いますけど、まだそういうところまではいっていない？

市民：区の皆さんにもお願いはしていますが、どうも区のものじゃないんじゃないかなど。

市長：出されるゴミの中で環境自治会の役員さんとかが手に負えないような物ではない？

市民：手に負えないような物はないですけど、やはり分別は必要になってしまうという所が一番問題になります。

市長：ここで明解にするにお答することができませんけど、そういう例は他にもございます。美サイクルセンターとして、また美サイクル茅野の皆さんにもお願いする中で、もう一度そこに啓発活動等ができれば、まずはそれをしていかななくてはいけないと思います。担当課の方からその件についてお答をしますので、宜しくお願いいたします。

市民：もう一ついいですか。話は違うのですが、この6市町村を見ると周りが市を挙げて婚活と言いますかそういうパーティーをやっているんですけど、茅野市は目立たないというかやっているかどうか分からないんですけど、そういうことはやられていますか？

地域戦略課長：婚活活動につきましては、現在具体的には社会福祉協議会が窓口になってやっております。市の方としても昨年までそういった活動も若い人達が集まる場所を提供することをやっていたけど、なかなかそれがどういった形にマッチングしていくのか、追求ができないことが難しい所があります。これから少子高齢化の中でそういった若い人達に早く結婚して子供を産んでもらわなくてはいけない政策、これも婚活という意味ではなくて違う方面の切り口で考えていきたい。例えばセミナーを行うとか、若い人達を集めてどういうことに気をつければ結婚に結びつけることができるかとか、そんなことも含めて進めていきたいと思っています。

市長：補足をします。婚活のイベントはご存じかと思いますが、6市町村の広域連合で年4

回やっています。そのことは茅野市もしっかりとPRさせていただいて、カップル率は毎回35%ぐらいできます。ただその後どうなったかまでは追跡・調査できませんので。市とすると広域でやる婚活をしっかりPRさせていただいている。やはり同じことをしても広域でやった方が意味がありますし、そういう訳で茅野市は昨年から公民館主催の「わかもの放課後倶楽部」という事業を立ち上げました。これには35名ほどが参加していただいて、年間を通していろんな独身の男女が事業をしてきています。これによってくっついてくればありがたいなということで。確かに婚活事業とかイベントをしていけば目立つかなとは思いますが、私は広域連合で非常に良い取組をしていますので、これを市としても進めて行くことの方が効果はあるかなと。そうではなくして茅野市としてできること、先程言いましたわかもの放課後倶楽部をやっていますけど、そういったことを仕掛けていければ良いなと思っています。一例は11月4日に金沢地区では「とろろ選手権」というのをやるんですね。これの女性版を今度やらどうかと。今の若い女子は結構きもちが好きなんだよね。女性の参加を募ってとろろ選手権をやって、そこに金沢地区の独身の男性と一緒に参加してやるとか、そういうような新たに何かをやるというよりも、今ある地域の素材に絡めていくことの方が個人的には面白いかなと思って。そんな仕掛けはついこの間金沢地区のまち懇でしたので金沢体協の若者達に「是非やれ」と。「もし金が掛かるようならコミュニティの補助金で応援してやるから企画してみろ」と言ってきましたけど。先程「湖東地区とは何だ？湖東地区はこういうとこだ」と、そういうことで仕掛けられれば面白いのではないかなという気がしています。

市民：ありがとうございます。ただこの間話を聞いたんですけど、茅野どんぼんの時に提灯張りですか？何かやると聞きましたがそれは企業からのやらせというか、「行って来い」という形で行って来て、逆に言えばやりづらかったという話が出ています。行政でやるにしても、出やすいやり方、参加しやすく楽しくできる形にもっていければ良いんですけど、無理矢理出されてただ行ってきましたという形になるという報告も聞いたことがあります。あと社会福祉協議会の方でやっていると思いますけど、おじいさんがやっているんですか？よく分からないんですけど。この間聞いたところ、どうしても良い人がいるような所だから全然話が進まないという話があります。諏訪で婚活か何かあったと話を聞いたときに、本当にやる気のないような方が公務員的な所というか、来た者を受ければ良いだけで後は勝手にやれという形がありますので、もっと活性化できる形で若い人でイベントを作ったりとか、もっと盛り上がる形でできれば良いなと思っています。そういうこともできればと思います。

市長：おっしゃるとおりで、先程言いました広域連合でやっているのは結構盛り上がってやっています。それを最大限に活用する方が良いかなと。本当に公務員がやると面白くないです。いかに面白くするかはあまり公務員は関わらない方が良いかなと思います。またみえみえに婚活とやると参加しにくいという声も聞きます。ですから先程の「とろろ選手権、女性版」は結構盛り上がるかなと思うんですよね。そういったいろんなアイデアは出して取り組んでいく

いと思いますし、「わかもの放課後倶楽部」はまさに企業の押し付けではなくて個人の希望で来ていますで、結構良い雰囲気で行っていると聞いています。ご意見はよく分かります。

市民：分かりました。ありがとうございます。

市長：まだまだこれから発言が盛り上がってくる所だろうと思いますけど、予定していた時間もまいりました。今日はいろんな面にわたりましてご意見をいただきました。今日ここでストレートにお答えできなかった件につきましては担当課の方からお返しをしたいと思いますので、よろしく願いいたします。お忙しい中お付き合いいただきましたことに感謝を申し上げまして、今日はこれでお開きとさせていただきます。どうもありがとうございました。